瀬戸臨海実験所年報, 第 13 巻, 2000

田辺湾周辺海域の腔腸動物相
淡水水母目（刺胞動物門、ヒドロ虫綱）

久保田　信

Faunal list of Coelenterata collected from Tanabe Bay and its vicinities.
Order Limnomedusae (Phylum Cnidaria, Class Hydrozoa)

SHIN KUBOTA

ヒドロ虫綱淡水水母目は、世界的によく知られているマミズクラゲ *Craspedacusa sowerbyi* Lankester などを含む。わが国からは、淡水性の 2 属 3 種および海産の 6 属 10 種が知られている(久保田, 1998)。全種ともクラゲ世代を有し、ポリプより優勢である。しかし、それぞれの種のクラゲが、いかなるポリプからどのように遊離するかは、まだ充分解明されていない。ポリプが極めて小さく飼育が容易でないことや、野外から発見されるチャンスが少ないためである。形態が判明したポリプには、単体性のものと群体性のものがある(淡水性はすべて単体)。単体ポリプは、蠕虫状で海底をはいまわって分散するフルストラを生じさせる特徴がある。

この目のクラゲは、ポリプから遊離した時点で、成熟しているものと未成熟なものとがある。成熟クラゲの有性生殖によりプラヌラ幼生が生じる。この幼生は様々な基質に着生してポリプとなる。特定生物と共生関係にある種も知られている。例えば、北日本に分布するエダクダクラゲ *Proboscidactyla flavicirrata* Brandt は、環形動物門のエラコ *Pseudopotamilla occelata* Moore の棲管入り口を取り巻く群体性のポリプを形成する。本目は刺胞動物門の中では比較的小さな分類群ではあるが、生活史が充分解明されていないため分類学的諸問題がまだ未解決のことが多い(Kramp, 1961 などを参照)。

淡水水母目のクラゲにはこの類に特有の形質が見られないので、他の目に入れられた経歴を持つ種もある。この目だけの特徴ではないが、本目の顕著な形質としては、外傘上に触手(例：ハナガサクラゲ) や刺胞塊(例：エダクダクラゲ、ミサキコモチクラゲ)を装備する 2 点が認められる。

田辺湾周辺海域からは、4 属 4 種(疑問種を含めると 5 種： 久保田, 1988 参照)の淡水水母目のクラゲが記録されている。日本沿岸全域で 10 種であるから、本海域には比較的多種が見られる。以下のリスト(学名のアルファベット順に示す)では、シノニムは[　　]中に並記し、和名があればそれを付した。リスト中、瀬戸(白浜)付近が模式産地となっている種はない。

田辺湾周辺海域の淡水水母目リスト

クラゲ

Gonionemus vertens A. Agassiz, 1862 カギノテクラゲ [*G. depressum* Goto, 1903]

Olindias formosa (Goto, 1903) ハナガサクラゲ [*Olindioides formosa* Goto, 1903]

Proboscidactyla ornata (McCrady, 1857) ミサキコモチクラゲ [*P. ornata* Brown; *P. ornata* var. *gemmifera* Maas; *P. flavicirrata*? var. *stolonifera* Maas, 1909; ?*P. typica* (Uchida, 1927); ?*Misakia typica* Uchida, 1927]

Scolionema suvaense (A. Agassiz & Mayer, 1899) コモチカギノテクラゲ [*S. gemmifera* Kishinouye, 1910]

参考文献

Kishinouye, K. 1910. Some medusae of Japanese waters. J. Coll. Sci., Imperial Univ., Tokyo, 17, art 9: 1-35, pls. I-V.

Komai, T. 1951. Phyllotaxis-like arrangement of organs and zooids in some medusae. Amer. Nat., 85(820): 75-76.

Komai, T. & Ikari, J. 1929. The Seto Marine Biological Laboratory of the Kyoto Imperial University. Its equipment and activities, with remarks on the fauna and flora of the environs. (A revised article). Rec. Oceanogr. Works in Japan, 1(3): 113-129, pls. 27-35.

Komai, T. & Yamaji, I. 1945. Order found in the arrangement of organs and zooids in some medusae. Annot. zool. Japon., 23(1): 1-7.

Kramp, P. L. 1961. Synopsis of the medusae of the world. J. mar. biol. Ass. U.K., 40: 1-469.

久保田 信. 1988. 和歌山県産ヒドロ虫類. 南紀生物, 30(2): 115-120.

久保田 信. 1998. 日本産ヒドロ虫綱(8目)目録. 南紀生物, 40(1): 13-21.

時岡 隆. 1982. 「海の生物」白浜町誌 自然編 白浜の自然. pp. 165-233, 白浜町.

Uchida, T. 1927. Studies on Japanese hydromedusae. I Anthomedusae. Jour. Fac. Sci. Tokyo Univ., 1: 145-241, pls. 10-11.

山田真弓. 1984. 田辺湾ヒドロくらげ類(II)ー故井狩二郎氏のスケッチからー. 南紀生物, 26(1): 1-8.

Yamazi, I. 1958. Preliminary check-list of plankton organisms found in Tanabe Bay and its environs. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 7(1): 111-163.